

研究開発項目

1. 研究開発項目 1 : CCC の機能要件と社会受容可能性の明確化

2023年度までの進捗状況

1. 概要

本研究開発項目は、プロジェクトの「子育て多様化の背景調査と実践による理論化」を担っています。この研究開発テーマの達成により、「従来の子育てに関する制度を補完する CCC に必要となる機能が明確化されること」となり、プロジェクトの目指す「社会全体で多様な人々が柔軟かつ責任をもって子育てに関わる『わたしたちの子育て』の実現」、ムーンショット目標9で目指す「個人間・集団のコミュニケーション等におけるこころのサポート」に貢献します。この達成に向けては、「子育てを社会全体で行うための具体的な方法や方針を明らかにする」ことが課題となっており、これらの解決を目標とし、2つの具体的課題に取り組みます。

課題1：子育ての実例・専門家の視点からの要件構築

子育てに関わる多様な人へのインタビューや既存の社会制度に関する文献調査を通して、子育てに第三者が関わることの長所・短所について複数の専門領域から検討します。

課題2：CCCに基づく家族関係のテスト

本研究グループ関係者で実際に擬似的 CCC を運用し、ロールプレイとテストの反復によって具体的な状況で生じる課題や CCC の利点について仮説を整理します。

2. これまでの主な成果

課題1a:

A: インタビューによる実態調査

養育者とその子、子育て支援提供組織運営者、子育て当事者以外の子育て経験者など合わせて 98 名にインタビューを実施し、第三者が子どもに関わる受容度合いの幅を明

確にしました。

B: 有識者へのヒアリングとアドバイザーボードの設置

23 名の専門家にヒアリングを行い、そのうち発達心理学を専門とするアドバイザーに、CCC のアイデアを共有し、フィードバックを受けました。

C: 大規模 Web 調査と潜在的参画者判定質問紙の作成

0-18 歳の子を持つ親 1,806 名、10-18 歳の子 1,044 名、第三者 977 名に対して Web 調査を行ない、受容可能性と関連するかわりの在り方を見出しました。

D: 生物学的観点から見た現在の子育て環境のメリット・デメリットの検証

ヒト以外の哺乳類との比較を通じて、親以外の第三者が関わることのメリットと問題点・リスクを明確化しました。

課題1b:

A: 代替養育等に関連する文献研究と事例研究

文献調査と事例研究に基づき、代替教育/子どものケアへの社会的評価に関わる要素を抽出しました。

B: 文献研究と事例調査を踏まえた CCC の機能要件明確化

抽出した要素に基づいて 3,900 名を対象としたビネット調査を実施し、各要素が「親が子どもを預けたいと思う程度」や「第三者が関わりたいと思う程度」にどの程度関連するのかを検討し、関連する要因を明らかにしました。

課題2：CCCに基づく家族関係のテスト

CCC の事例として、親、子、第三者からなるチーム家族を構成し、CCC に基づく家族関係の構築を試みました。これにより、状況の把握、解釈、介入の決定、実施という CCC の具体的なイメージを固めた。また、研究期間のあいだ家族と代替親族の関係について、定期的にインタビューなどを行った。さらに、ワークショップ手順の開発にも着手しました。

(写真：親子と第三者からなるチーム家族が一緒に関係性



構築のためのワークを行なっている様子)

3. 今後の展開

課題1: CCC 機能要件の明確化と潜在的参画者判定システム

作成した調査項目を用いて大規模調査を行ないます。CCC に求められる機能要件の整理と抽出を行ない、CCC の制度設計と運用における課題と解決策の提言を行ないます。

課題2：CCCに基づく家族関係のテスト

既存の記録ドキュメントに基づき、CCC の実践に必要な役割・指針・問題リストの対応策を改訂するとともに、CCC 実施に向けた人づくりや場づくりを含むシナリオ集を作成します。

研究開発項目

2. Child Care Commons 運用システムの設計

2023年度までの進捗状況

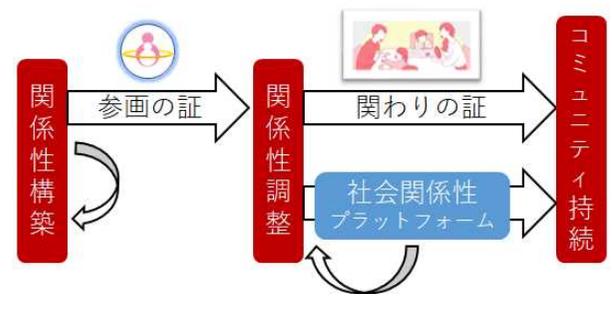
1. 概要

本研究開発項目では、「Child Care Commons(CCC)」の実現に必要なシステムの要件を構築することをめざします。この目標を達成するために、システムによって実現されるべき機能群を明らかにするとともに、その機能群を実装できる技術の要件を検討する必要があります。また、CCC が親子や第三者にとっての効用となるのかを検討する必要があります。

課題3:CCC をささえる ICT の仕様

CCC の中で、親子以外の多様な人(参画者)が、主体的に関わる仲間として参画することや、その人なりのやり方で、柔軟かつ責任をもって関わることを、デジタル技術、特にブロックチェーン技術やそれに類する技術によって支援します。具体的には、参画の証(電子的なメンバーシップトークン)を発行した

ブロックチェーン技術などを用いることで、例えばメンバーシップトークンによって合意の存在を記録したり、親子と参画者の関わりに関する情報の真正性が保証される。これによって一方的な関わりや破棄、関係性の改ざんを防ぐことができる。



り、どのような関係性が醸成されているのかを可視化できるようにすることを考えています。

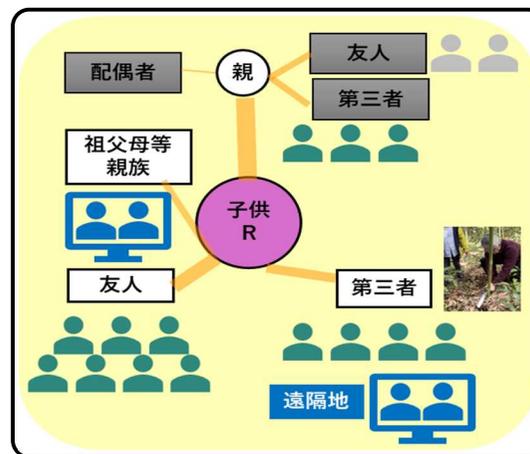
課題4:CCC をささえるエビデンスと受容

CCC のような取り組みが、子どもや親、第三者(参画者)にとってどのような影響を及ぼすのか、またどのようにしたらCCC が親子や第三者にとってポジティブな効果を与えるのかを考え、そのためのエビデンスを脳科学や心理学の視点から検討します。

2. これまでの主な成果

課題3:CCC をささえる ICT の仕様

CCC 運用システムを設計するため、親子と第三者の関係性を開始させたり、終了させたりするための承認行為のデザインと、その記録システムの要件構築、過去データに関する CCC 内でのデータ共有システム要件構築、親子と代替親族の信頼・心的つながりの可視化のためのシステムの要件構築を行いました。関係性が変容したことを表現できるよう工夫しました。



課題4:

A:CCC に関連する個人特性の神経基盤の解明(CCCのための個性推定法の基盤研究)

個人の個性を神経学的に安定的に抽出・推定できるようにするため、MRI で得られた脳画像から重要な情報を抽出して、解釈可能なレベルにする作業を行ないました。これと合わせて、心理行動データを追加取得し、令和6年度に行なう新しい個性推定法のための準備を進めました。

B:幼児期、児童期、思春期の社会関係資本/ソーシャルネットワークとその後のウェルビーイングの関係性の検討

子ども、その親、成人の3群について、それぞれのべ4000名規模で社会関係資本の質問紙調査を行ないました。これによって、第三者が関わる質や量が、現在または(現在から振り返る)過去のウェルビーイングにどのような影響を与えるかを検討しました。



3. 今後の展開

今後、構築した要件を統合するようなシステムを設計していくとともに、CCC の効用に関するエビデンスを蓄積し、安心してCCC に参加していけるような環境整備を進めていきます。

研究開発項目

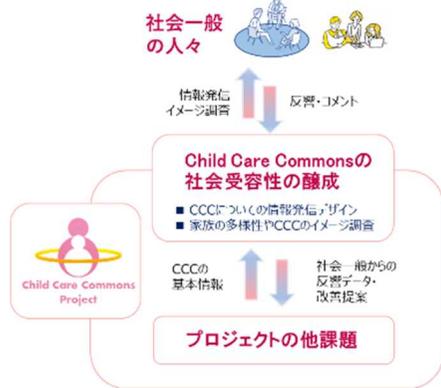
3. Child Care Commons の社会受容性の醸成

2023年度までの進捗状況

1. 概要

本研究課題では、社会全体で子育て環境の選択肢を広げていくことをめざす「Child Care Commons (CCC)」のメリット理解や多様な子育ての環境をそれぞれの親子が選択することを許す雰囲気を、社会一般で広く醸成することをめざします。この最終目標に向かって、子育て環境の多様性に対して社会一般の方々をもつ様々な考え方を調査し、その結果にもとづいてCCCが社会一般に受け入れられるようなシステムの修正提案・要件構築の検討を行います。

その中では、アンケートなどでのイメージ・意識調査にとどまらず、私たちの考えを適切に伝えるメディアやワークショップのデザインも行います。これらのメディアデザインを通して、情報発信に対する社会一般のフィードバックが円滑かつ適切にプロジェクトに反映されるしくみを構築します。この取り組みによって、CCCがもたらすと期待される子育て環境の多様化が、専門家だけではなく、様々な人により受け入れやすい形にアップデートされていくことが期待されます。



2. これまでの主な成果

課題5:

A: CCCのあり方に関わる情報を発信するWebサイト

昨年度作成したリーフレットをもとに、私たちの考え方について紹介するWebサイト (<https://childcarecommons.org/>) を開設しました。



(2023年度に開設したWebサイトの抜粋)

専門家を含むテストユーザ群からの反響などに基づいて、継続的に修正していく必要がある箇所を確定しました。

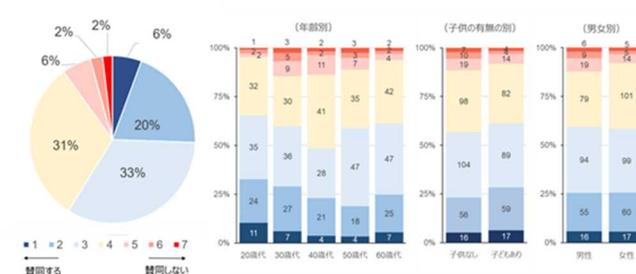
B: CCCの社会受容の要件の抽出

2023年度には、約1,000名分の反響データをテストユーザ群の属性などと合わせて収集し、基礎的な解析を進めました。昨年度の調査データと合わせて、CCCや第三者の子育て環境への参加の大きな傾向について課題1の調査結果等と比較検討することで、作業仮説の構築を進めています。

2022年度の調査によるデータ解析の結果からは、少なくとも調査に参加いただいた回答者群の中では、家族の形に対する一般的なイメージに対しては世代差がある一方、CCCへの

賛同度には統計的に優れた年齢の効果は見られず、広い年代に対してCCCに対する許容度が高いことが示されました。これらの結果では、親子を含む家族に、第三者の関与を含めた多様な形を考えていく方向性自体には共通理解がすでに得られているものの、具体的な問題の所在については、様々な意見があり、特に負担となっている事柄については年代による考え方の差がある可能性を示しています。

C1. CCCへの賛同度 (N=579)



(2022年度の質問紙調査の解析結果抜粋)

3. 今後の展開

今後は、成果を論文として発表するとともに、2024年度には、さらに、CCCに対する認識の一般的な傾向やそのユーザ属性による違いをより詳しく解析する予定です。ほかの研究開発項目で実施している調査結果等との比較検討も行い、CCCの受容性についての作業仮説構築を進めます。構築された作業仮説に関しては、2024年度に実施予定の大規模調査で、より多数の方からのデータに基づいて仮説を検証し、CCCの社会一般に向けた受容性の醸成に向けて方針をアップデートしていく予定です。